



消防

魂

シリーズ
防災特別編
消防団

1. はじめに

全国各地で地震や風水害が多発しており、地域に密着した防災組織の必要性はさらに高まっています。

しかしながら、全国の消防団員数は減少傾向にあり、町においても団員定数365人に対して346人と、毎年新入団員の確保に苦慮しています。

2. 消防団とは

法律に基づき各市町村に設置されており、消防署と連携を取りながら活動しているボランティア消防機関です。地域に密着し、住民のみなさんの安心安全を守るという重要な役割を担っています。

3. 退職金もあります！

消防署での常勤消防職員とは異なる非常勤特別職の地方公務員となります。

報酬の他に、災害や訓練に出動した場合の出動手当なども支給され、一定期間勤務すると在籍年数などに応じた退職報奨金が支給されます。

また、活動中のケガに対しては公務災害補償制度が適用されます。

4. 年齢層

町の消防団は、条例において八百津町在住または在勤の18歳以上の男女が対象となります。現在町では主に30代(全体の44%)、続いて40代(21%)、20代(18%)の会社員や自営業の人たちで構成されています。年齢層は幅広く、活動を通じて地域を結ぶ強い絆が育まれています。



5. 活動内容

団員は、本業をもちながら活動しています。主に火災発生時の消火活動を行います。災害時の警戒や行方不明者の捜索など、消防団長の招集命令に応じて出動します。

日頃は緊急時に備えた訓練や点検・火災予防の啓発活動を行っています。また、花火大会の警備や地域で行われる防災訓練への参加など、地元根付いた活動も行っています。

6. 町消防団の姿

八百津町消防団の平均年齢は37・8歳。全国の消防団平均年齢から見ると、比較的若い年代が団員になっている現状です。しかしながら10代から20代前半の入団者は少なく、団員の平均年齢も年々上がってきています。また、核家族化やライフスタイルの変化などから地域の連帯感が希薄化しており、消防団員の確保が困難な状態となっています。地域の防災力を高めるために、消防団は重要な組織です。そのため消防団員が減少することは、地域の防災力の低下に直接結びつくということになります。

写真右 産業文化祭での

ラッパ隊発表の様子

写真左 防災訓練の様子